

事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和6年3月29日

事業所名 入間市元気キッズ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	・児が安心して取り組めるよう、活動に応じたスペース作りを行った。	・基準を順守しつつ活動内容に工夫をこらしていきます。
	2 職員の配置数は適切である	11	0	・全クラスで協力し合い、担任の欠員があった際には他クラスからヘルプをもらい調整している。 ・足りないと感じる時もある。 ・基準は満たしているが、足りないと感じることもある。	・児童発達支援センターの基準（児童4人：職員1名）を確保しつつ、クラス間や全職員で情報共有できるように活動の流れを見直します。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11	0	・視覚支援、環境設定を通じて児に分かりやすく、安心・安全な環境の整備に留意した。 ・安全点検をこまめに行っており、何かあれば修理し、事故やケガを未然に防いでいる。	・必要性に応じて柔軟に環境整備を行います。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	0	・活動後の掃除、消毒の徹底 ・座位の取れない児の為にジョイントマットを使用している。 ・児の特性、発達に合った活動を計画、シミュレーションを行い取り組んできた。 ・口に入れたおもちゃや使う頻度が高いおもちゃの消毒をしたり、コロナ第5類以降も感染予防を保っている。 ・食後の食べこぼしなど確認し、清潔で安全な環境を保てるようにしている。 ・毎日の清掃と決められた曜日の消毒の実施。 ・カビや雨漏りなどもあるが改善の努力をしている。	・感染症対策も含め、引き続き安全で清潔な環境を維持するように努めます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11	0	・より効率よく業務を行うにはどうしたらいいか、皆が常に意識して動いている。	・効率的に業務を進め、職員全体がPDCAサイクルに参画できるように努めます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	0	・評価結果、改善点の周知を行っている。 ・内容により、改善に繋がる事が難しい時もある。	・評価を毎年実施し、結果を公表することで、業務の改善に努めます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	0		・評価を毎年実施し、結果を公表することで、業務の改善に努めます。また結果を公式ホームページで公開します。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	11	・制度上義務づけられていないため。	・第三者評価の実施の必要性については今後検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	・本年度はストレスケアの研修もあり、職員自身のケアが療育に繋がることも感じた。 ・長期休みには社内研修で社長から実践的なご助言をいただいている。 ・セッション中のビデオを撮り実際に自分の動きを見てもらい助言をもらえるので助かる。	・引き続き定期的な研修を実施し、職員全体の資質向上に努めます。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	0	・3種類のアセスメントチェック表を児に合わせて実施している。	・引き続きアセスメントや課題分析の研修や指導に努めます。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	0	・ESDMチェックリスト、KIDSスケール、福山特別支援学校のアセスメントを使用。 ・KIDSスケール、ESDMのチェックリスト等活用することで成長の芽生えを感じる事ができ支援計画へと反映させている。	・子どもの状況に合わせて適切なアセスメントツールを使用しています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11	0	・家族支援に関しては送迎時や連絡帳を通して報連相することで細かな支援が行えている。 ・地域支援は併用先との情報共有の機会が増えている。様々な方面からの支援が出来ていると感じている。	・年度初めに、全職員にて児童発達支援ガイドラインの読み合わせを実施し、支援計画に入れるべき「発達支援」「家族支援」「地域支援」を確認しています。

適切な支援の提供

13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・活動前に必ず支援計画の内容を確認している。 ・支援計画達成の為、意識して活動している。 ・支援計画に沿った記録を作成し保護者と共有しながら、改善点なども記入し次の機会へつなげている。 ・セッション中忘れてしまう事もあるため、付箋に書いて貼る等、忘れないようにし計画に沿って支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に児童発達支援計画を念頭に置いて支援します。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・立案したものを担任間で共有、検討している。 ・児の特性に応じて立案、進行の仕方等を毎日打ち合わせた。 ・児の興味、関心に合わせて随時活動計画を作成している。 ・新しい活動はシュミレーションを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き職員間で共有を図りながら、計画立案に取り組んで参ります。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月案や過去の活動計画を参考にプログラムの立案をしている。 ・こどもの興味・関心に合わせた活動を提供していけるよう、様々な提供の仕方や展開を行っている。 ・予定を組みつつ、天気や児の活動への興味、関心によりプログラムの調整を行った。 ・なるべく好きな活動が飽きない程度に案を立てている。また、展開をさせ遊びをより充実させている。 ・児の好きな活動に、他の活動を組み合わせることで飽きずに楽しめる工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に活動プログラムの反省・評価を通じ固定化しないよう努めます。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動の中でも個別に合わせた内容の物を提供したり、工夫している。 ・担任と児発管で支援検討会議を実施し個々に応じたバランスのよい目標設定になるようにしている。 ・粗大、微細運動に関する計画を盛り込み、活動の中で目標立てアセスメントを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動も集団活動も、子どもの状況に応じた適切な活動計画を作成します。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・前日と当日の朝、内容や役割を打ち合わせできるようにしている。 ・活動計画をもとに、シミュレーションを行うことを大切にしている。 ・時間で予定を決め、不測の事態も考え動きを打ち合わせしている。 ・担任以外がヘルプでクラスに入ることも多く、役割を書き記すことで無駄な動きがなくスムーズに療育出来ている。 ・ヘルプでは打ち合わせが出来ない時もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き打ち合わせの時間を確保するよう努めます。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画に赤字で修正を記入したり、反省会を実施している。 ・管理者への報告、相談をしアドバイスをもらっている。 ・実際に取り組んだ上での改善点も多いため、その都度担任間で共有。活動計画も定期的にブラッシュアップし、よりよいものへつなげていくようにしている。 ・クラス担任が一定の時間に揃うことが少ないため、情報共有を意識的に行い、その日の振り返りや反省をしながら計画に繋げた。 ・出勤時間の異なる担任とは、メモで共有したり、その担任の退勤後に休憩をとることで、直接打ち合わせできる時間を作っている。 ・職員間で相談しアドバイスがもらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き打ち合わせの時間を確保するよう努めます。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・出席した児の療育記録の実施。 ・記録記入後に担任同士で確認し次に繋がられるようにしている。 ・通所日には必ず記録をとり、児の細かな変化に気付けるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き支援の改善につながる記録作成に努めます。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・半年に一回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者を中心にモニタリングを実施します。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	0		<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所が開催する支援会議に積極的に参加します。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	11	0		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域保健部門の親子保健担当と連携して支援します。

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11	0	・相談支援員や保護者を通して情報の共有を行っている。	・地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携し、情報交換を行います。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	0	・主に保護者を通して確認していただいている。	・主治医の意見書や指示書に基づく支援を行うとともに、必要に応じて医療機関との情報交換を行います。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	・必要に応じての情報共有、入学前後の情報共有を行っている。 ・家庭の希望や療育の必要に応じて、併用先との電話による情報共有や見学、支援の方向性の確認をし計画に繋げた。	・必要に応じ、書面や話し合い等で情報共有していきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	・情報共有の際、保護者承諾のもと個別支援計画のコピーを渡している。	・必要に応じ、書面や話し合い等で情報共有していきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	0	・松原学園へ見学に行かせてもらい、他の事業所の工夫などを見れた。	・国立障害者リハビリテーションセンター学院と連携し、専門的な助言や指導を受けています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10	1	・併用先のある児童に関しては行っている。 ・併用先で交流がある。	・今後の感染状況とお子さんの発達状況を見定めて交流を検討します。。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	0		・参加要請に応じて出席しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	・親子通園クラスはその場で共有できるように心がけている。 ・来所、降所時に家庭での様子など伺っている。 ・降園時にその日の様子を伺い情報共有を行った。 ・共通理解が得られない親御さんもいる。	・引き続き保護者との意思疎通を図ります。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	11	0	・必要に応じてベクスのペアレントトレーニングを行っている。×2	・親子通所クラスでは保護者への支援も行っています。プログラムの実施の必要性について今後検討します。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	0		・引き続き丁寧な説明に努めます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	11	0		・計画への同意は必ず前保護者から得ています。引き続き丁寧な説明に努めます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	0	・保護者の様子を注意深く観察し、相談があった際は「ききとりシート」などを利用し適切な助言ができるようにしている。 ・必要に応じ併用先へ連絡し情報共有や方向性の確認を行い計画に繋げた。 ・児発管への報連相をし、早急かつ適切に助言と支援が対応できるようにしている。	・保護者からの相談には随時対応し、必要に応じ専門職(心理・PT・OT・ST)の助言も求めます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	0	・必要に応じて実施し、親の会も立ち上げ支援を実施している。	・引き続き活動への支援を実施して参ります。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0	・即答できない時には、児発管に相談したり当社の療育データベースを確認し、根拠を持って改善策の提示など対応を行った。	・保護者の皆様からの申し入れや相談に対しては、担当者と責任者を定めて対応します。内容につきましては、即時対応することが難しい場合もありますが、誠意をもって改善に努めて参ります。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	・手紙の配布や掲示のみでなく、直接噛み砕いてお伝えするなどし情報を伝えている。	・引き続き取り組んで参ります。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11	0	・氏名はふせ字を徹底している。 ・他事業で施設を活用する場合は、名前や室内の窓をふさぐなど、個人情報が見えないようにしている。	・引き続き配慮していきます。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	・主に視覚支援を用いて、こどもや家庭に合った情報伝達や意思の疎通が円滑に行える方法を心がけた。	・特性に合わせた意思疎通の支援をしています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	11	・専門性の高い支援には利用児の認知上、無駄な刺激を排除することが不可欠なため行っていない。	・高い専門性の観点から、地域住民を招待する等の事業は行っていません。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	0	・保護者へはモニタリング時に確認、共有している。 ・今年度は消防士が来て指導していただいた。実践することでよりイメージをしながら訓練が出来た。	・職員間での共通認識のもと、特性に配慮した訓練を実施します。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況を想定し毎月実施している。 ・火災、地震、不審者などパターンや場所を変えて行うことで、児がイレギュラーでも混乱せずに参加する事が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置基準の規定に基づき、月1回程度の訓練を予定しています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・てんかんは登園時に毎回確認。服薬の変更はお薬手帳のコピーなど行っている。 ・保護者からいただいた事前情報に基づき、こどもの様子を細かく確認するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き看護師を中心に適切な対応に努めます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーに対する結果の報告書はあるが、指示書を見たことはない。 ・お弁当持参のため、わからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、重度のアレルギーの子どもはいませんが、必要に応じて対応を検討します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告書と終礼で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なヒヤリハットについても記録し職員間で共有しています。。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・社内研修の他、市主催の研修に参加し職員間で情報共有を行った。 ・自分たちの細かな動きや関わり方によっては児にとって辛い経験になってしまう事を実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き毎年の研修を行います。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0	11	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約の段階で説明を行っているが、いかなる場合でも、身体拘束を行わない支援方法を考え、療育活動を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援計画への記載については来年度から対応致します。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。